

ひとと地域をつなぐ広報紙

# もいたねっと

第49号

令和5年2月2日  
発行

人口と世帯 人口 15,692人 [+26] (男 7,639人 [+20]/女 8,053人 [+6])  
世帯 6,035戸 [+16] 令和5年1月10日現在(前年比)

## サクラマスサミット 祝10年活動継続



### 2012年 スタート

県外の釣りに来ている車にポスティング  
その甲斐あり約100人参加



### 2013年 クリーン作戦開始

釣り客からの手紙がきっかけに  
なった



### 2013年 ワークショップ

釣り人と地区民でお互いの謎を解く



### 2014年 座布団集会

大井川・揖斐川・石徹白川での  
自然を守るための取り組みを聞く



### 2016年 食文化の継承開始

アラレガコを使った料理などの振  
舞い開始



### 2018年 「やろっさFUKUI」の取材

YouTube で現在も視聴可能



## MoRe:Sta.



森田駅を拠点とした新たなコミュニティを作るう  
と、昨年行った駅活用ワークショップの意見をもとに  
11月20日に社会実験「MoRe:Sta. (モリスタ)」  
を開催しました。野菜販売や、誰でも気軽に利用で

きる無人の図書貸出コーナー(良心図書館)、仁短  
生のお店(子ども縁日、雑貨販売など)や、事前申  
込者によるチャレンジショップなどもあり、雨が降る  
中でしたが、225名の方が足を運んでくれました。



子ども縁日



賑わうチャレンジショップ



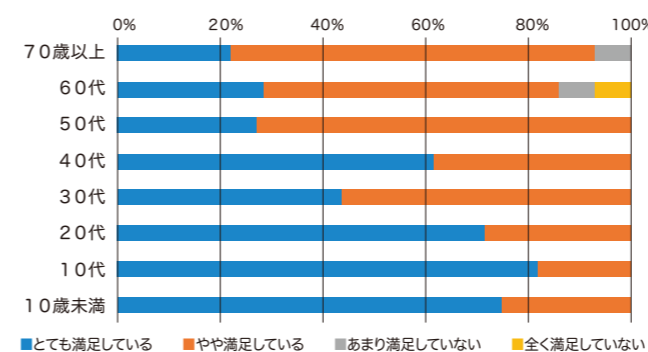
公民館食堂手づくり  
「よもや菓子もどき」



良心図書館

### ◆ 来場者アンケート結果 仁短による集計 アンケート回答数 112人 (回答率 50%)

図1. 年代別満足度



10歳未満から70歳以上まで、幅広い年代の方が  
来場した。

年代別満足度では、若年層の満足度が高く、高齢  
者層は低いことがわかる。これは、「子ども縁日」な  
ど子ども向けの店が多かったことや、構内に座ってゆ  
っくりできる場所がなかったことが原因と考えられる。

また、カフェコーナーもあったが、販売だけで座る  
スペースがなかったため、売れ行きが悪かった。この  
ことからゆっくり座れる場所は必須だと分かった。

図2. 普段の駅利用頻度

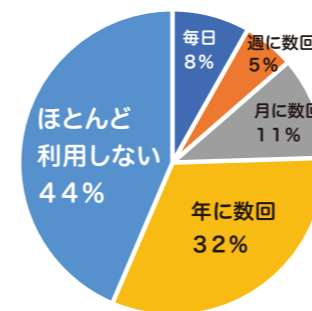


図2を見ると、来場者のほとんどは、普段駅を利用していない。こ  
のことから、駅でイベントや魅力ある事があれば、普段駅を利用しな  
い方も駅に集まるということが分かった。

そこで、図3の駅構内にあるといいものを見ると、コンビニ(3  
3%)、喫茶コーナー(17%)、無人販売(11%)を期待する声が多かった。

図3. 駅構内にあるといいもの

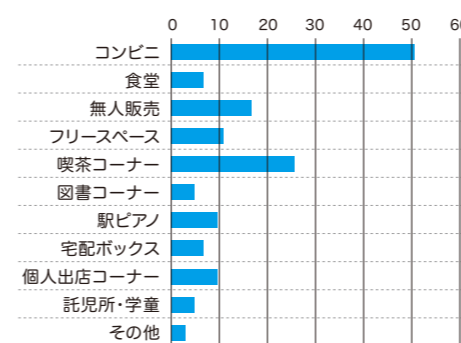
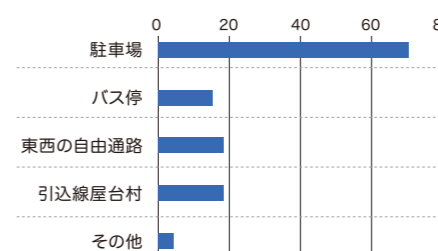


図4. 駅周辺にあるといいもの



今回通した周回バスの利用  
のべ人数は35人で、参加者  
全体の約15%だった。普段駅  
を利用しない方でもバスが通  
れば、駅に来やすいことが分  
かった。ただ、図4でもわか  
る通り、駅に駐車場を希望す  
る声は圧倒的に多く、引き続  
き要望していく必要がある。



次年度のモリスタは、曜日や時間を変えて開催し、住民のニーズをさらに把握して  
いきます。チャレンジショップも随時募集していく予定です。



## 伝統つながる剣道祭

森田中学校

コロナ禍により学年ごとの開催となり、規模こそは縮小されていますが、今年もとても盛り上がりを見せていました。

まずは剣道部が模範となる試合を見せてくれました。とても迫力があり、それまで騒いでいた生徒たちがじっと見入る様子が印象的でした。

その後のクラス対抗試合は、剣道部員のようにはいきませんが、2

週間程前から練習をして臨んだ試合はとても熱気がありました。「一致団結して応援する事で、同じクラスのあまり話したことがない子ともグッと距離が縮まった！」と女子生徒が笑顔で話していました。

「礼に始まり礼に終わる」相手への敬意を示し、礼儀、礼節を重んじる精神が森中っ子を育てていき、将来の糧になっていくことを願っています。



## 白熱! ドッジボール大会

子ども会育成連合会

高学年と低学年を2日に分けて行いました。

両日とも寒い日でしたが、熱いゲームが繰り広げられ、体育館に子どもたちの歓声が響いていました。高学年ではドッジボール協会の協力もあり、普段では味わえないような正式ルールの下に行われました。ドッジボールは、馴染みのあるスポーツで学年問わずみんなで楽しむことができました。



### ★保護者の感想

練習してなかったので、どんな試合展開になるのかと心配しましたが、ドッジボールは、日頃から子どもたちに親しまれている競技なので、学年が違って参加しやすかったのではないかと思います。

### ★参加者の感想(3年生 男子)

ぼくは低学年のチームで参加しました。1、2年生の子もいたので、3年生ががんばらないといけないなと思ってドキドキしましたが、銀メダルをもらって、うれしかったです。

### 試合結果(男女混合チーム)

【低学年】	【高学年】
1位 古市・栄町	1位 下森田新町B
2位 石盛B	2位 東森田
3位 栗森	3位 上野本町B

## 青少年育成講演会

青少年育成市民会議森田支部

昨年10月、コロナ禍の影響で3年ぶりに実施しました。

講師は、森田交番所長の藤崎正康氏。支部推進員や一般来場者ら44人が、小学生に対する適切な交通誘導方法などについて学びました。



### もう安心!

昨年7月に実施した環境浄化一斉点検において発見された危険個所のうち「通学路上の陥没穴(上野本町1丁目地係)」が補修・改善。これで安心して通学できます。

## 新九頭竜橋一周

森田地区社会福祉協議会

### ～第12回 健康ファミリーウォーキング大会～



晴天に恵まれ、開通間もない「新九頭竜橋」をコースに入れて、総勢330人が心地よい汗を流しました。新しい橋の歩道は幅が広くて歩きやすく、橋の上から見る景色は清々しい眺めでした。

幅広い年齢層の方に参加していただき、ありがとうございました。

## 第11回 サクラマスサミット ～九頭竜川を森田の誇りに～

「県外ナンバーの車が堤防にたくさん停まって、朝の暗い時間から人がウロウロしている。あの人はなんだ?」

・・・と言う謎を解くために、2012年、サクラマスの聖地・九頭竜川を地区民の誇りにしようと開催。

開催にあたって、お世話になった県内水面センターと、サクラマスレストレーション天谷氏から、活動10年継続のお祝いメッセージがあり、活動のあゆみを振り返る良い機会になりました。

また、県立大学田原教授から、アラレガコの養殖が軌道に乗るまでのいきさつや、サクラマスレストレーション安田氏からは、サクラマスに迫る危機についての話を聞きました。

その中で、私たち(地域)にできることは、川環境を守ること、川に親しみが持てるような活動をする

ことだと改めて学びました。

これらは、文化委員だけでできることではありません。

一人一人が、ポイ捨てはしない、九頭竜川クリーン作戦や川に関するイベントへ積極的に参加するなど、みなさんの協力が必要です。

来賓の方には、公民館食堂の協力で、九頭竜川の食文化を伝えるために「アラレガコの昆布巻き・九頭竜飯・おろしそば」が振舞われました。一般の方へは少し先になりそうです。



公民館食堂 奮闘中

### 参加者の声・・・元文化委員

九頭竜川のシンボルフィッシュ・サクラマスを守るために、魚の数だけを増やすのではなく、遺伝子レベルでサクラマスを守っている事。海に出て3年周期で戻ってくるはずが戻らない事。その原因が自然か人間か?不安要素がある事も知った。サクラマスサミットでの学びがなければ、知る事はなかったと思いました。



## 開通式 & メモリアルラン

昨年行われた開通式では、杉本知事、東村市長をはじめ多くの方がお祝いに駆け付けました。3世代渡り初めの他、石盛と下森田の子ども太鼓が式に華を添えました。その後メモリアルランが行われ、約800人が新九頭竜橋を走りました。



また、ボランティアとして体振のみなさんも参加し、ランナーを応援しました。

3月には「ふくい桜マラソントライアルラン2023」、2024年からは新幹線開通に伴いフルマラソンも開催されます。

ランナーや大会ボランティアとして参加したり、沿道で応援したり、みなさんそれぞれに合った形で大会に関わり、みんなで盛り上げましょう!

